

④ 地震・津波からの避難

- 震度5弱以上が予想されると緊急地震速報が出ます。(速報が間に合わないこともあります)
- 津波が予想される場合は約3分で警報等が出て、予想の「津波の高さ」「到達時間」を発表します。
- マグニチュード8を超える巨大地震のとき、津波の高さは「巨大」「高い」と発表します。

「巨大」「高い」と聞いたら、すぐに避難しましょう。

		こんな現象が 起こる!		地震の震度	
震度 0	地震計のみで観測でき、人体には感じない。				
震度 1	屋内に居る人の一部がわずかな揺れを感じる。		震度 2	吊り下げ型の電灯や障子などがわずかに揺れる。	
震度 4	電線が大きく揺れ、花瓶などすわりの悪いものが倒れることがある。		震度 5弱	食器類や書籍が落ち、窓ガラスが割れることがある。	
震度 6弱	かなりの建物で、壁やタイルのや窓ガラスが破損、落下する。		震度 6強	立っていることが出来ずに、固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。	
			震度 5強	テレビが台から落ち、タンスや自動販売機が倒れることがある。	
			震度 7	耐震性の高い住宅でも、傾いたり、大きく破損するものがある。	

地震発生時から避難・避難後までの行動マニュアル

グラツ!! **地震発生!** ▶ 1~2分 ▶▶▶ 3分 ▶▶▶▶ 5分 ▶▶ 10分 ▶ 3日

最初の激しい揺れは
約1分程度

揺れがおさまったら
家族の安全確認

余震に注意しつつ
隣近所の安全確認

デマに惑わされず
正確な情報を収集

避難後は助け合い
の心で行動を

① まず、身を守る
クッションや座布団などで頭を保護。机やテーブルの下へ。

① 火元の確認

ガスの元栓を締め、ブレーカーを落とす。もし火が出ていたら、あわてずに初期消火を。

① 隣近所への声かけ
けが人、行方不明者がいない
かを確認する。

① 正しい情報を聞く
ラジオ等で正確な情報を収集。町役場、消防、警察、自主防災組織の情報を確認。

① 消火、救出、救援活動
みんなで協力して、消火活動
や、救出、救護活動を。



② 水・食料の確保

② すばやく火の始末
ガスやストーブの火を消し、電気器具はプラグをぬく。

倒れた家具の下敷きになっていないか確認。

②火災時には初期消火
大声で知らせ、消火器、バ
ケツリレーなど近隣で協力し
て初期消火を。

② 電話は緊急連絡を優先
安易に電話をかけることは避け、安否の確認は「災害用伝言ダイヤル」等を活用する。



③ 非常出口の確保

玄関、窓を開けて逃げ口を確保。

ガラスの破片や散乱物から足を守りため、靴か底の厚いスリッパを履く。



③ 倒壊した家等には入らない
倒壊した家やその危険性のある家には決して入らない。

A cartoon illustration of a young boy with brown hair, wearing a grey long-sleeved shirt and dark pants, running out of an open brown door. He has a surprised or excited expression, with wide eyes and an open mouth. His right hand is reaching out towards the door handle. There are sweat droplets above his head, suggesting he is running quickly or is nervous. The door has a window with six panes and a silver handle.



④ 危険地域から避難
津波やがけ崩れのおきそうな危険地域からすぐに避難

③ 危険があればすぐに避難
家屋倒壊などの危険があればすぐに避難する。

④ 災害情報、被害情報の収集

(1) 地震・津波が発生したときの、避難先・避難方法

- ▶ 「強い揺れ」「津波警報の発表」があったときは、**野塚小学校より標高の低い場所に住んでいる方は、避難しましょう。**
- ▶ 克雪管理センター、ふれあい交流館は、津波が来る可能性がありますので、避難先には使用しません。
- ▶ 日司泊の方は、積丹大橋が通行不能で津波が来るまで時間があるときは、車を利用し、日司小学校へ避難しましょう。津波がすぐ来るときは、裏山に避難しましょう。
- ▶ 地震のみ(津波なし)のときは、克雪管理センター、ふれあい交流館へ避難しましょう。
- ▶ 冬は、雪などで避難に時間がかかることを、忘れないようにしましょう。

	報 道		想定される被害	避難先・避難方法
	高 さ	表 現		
津波注意報	1m	—	・海で、流れに巻き込まれる。 ・小型船は転覆。	①海岸から離れる。 ②IP告知端末機、屋外拡声機、テレビ、ラジオ等の情報を聞く。
津波警報	3m	高い	・低い場所は浸水。 ・陸でも、津波の流れに巻き込まれる。	①すぐ、高い場所に避難（一次避難）。 岬の湯しゃこたん ●徒歩または車で避難します。 ●車で避難する方は、車で避難できない隣近所の方、徒歩で避難している方を発見したときは、乗せるようにしましょう。
大津波警報	5m	巨大	・木造家屋が全壊・流出。	野塚小学校および同校グラウンド ●徒歩で避難します。 ●倒壊の可能性がありますので、建物の使用は禁止します。
	10m			近くの高台 ●徒歩で避難します。
	10m超			②警報が解除されたら、安全な施設に避難（二次避難）。

津波の特徴を知って、避難に活かしましょう

恐るべき
破壊力

巨大な海水の塊が沿岸に押し寄せるので、すさまじい破壊力があります。
引き波も長時間にわたり引き続けるため、家屋などが海中へ引き込まれます。
警報が解除されるまで、高い場所で避難を続けてください。

高い場所
への溯上

一般的に、陸地に近づくほどに高くなり、V字型の谷では高いところまで駆け上がる
ことがあります。

谷間に避難するのは避けてください。

河川への 逆流

川に入ってきて何kmも逆流することがあります。
逆流した津波が、河川堤防を越えて沿岸に大きな被害をもたらすことがあります。
川の方に避難するのは避けてください。